

自転車男子マウンテンバイクで懸命に前を追う  
山本幸平選手=12日、英国・ハドリー(時事)



# ベスト出せた 成長たたえ

完走できずに46位に終わった北京五輪から4年。12日夜(日本時間)、ロンドン五輪自転車マウンテンバイク男子クロスカントリーに出場し、27位に入った幕別町出身・山本幸平選手(26) 〓SPECIALIに、日本から駆け付けた家族や関係者らは惜しめない拍手を送った。現地で応援したのは、父の哲也さん(56) 〓十勝農業共済組合獣医師 〓と母の美智子さん(54)、兄で同競技の現役選手の和弘さん(29) 〓キャンピングカーチーム北海道ハイテクノロジー専門学校、帯広三条高出、和弘さんなく、熊本県や青森県などにフェリーやレンタカーを使って遠征した。車内で

## 山本選手 支え続けた家族が声援



競技終了後に山本幸平選手(後列右から2人目)を囲んで記念撮影する父の哲也さん(同右端)や兄の和弘さん、母の美智子さん(中列右から2、3人目)

(28)、帯広寝袋にくるまり、一夜を過す。鎌田輪業の「ごしたこともある。美智子さんは「つらいとは思わなかった。家族の楽しい良い思い出」と振り返る。

ツ姿で、山本選手は小・中学校は皆勤賞、高校でもレースで公欠以外は1日も欠席しなかった。月曜日の早朝に丸の小旗を振り、そのまま登校して必死に声援を送った。「スタートさえうまくいけば」。哲也さんが心配する様子も、両親は頼もしく思った。

選手は他の選手の出遅れはしたものの懸命に追いついた。和弘さんは「誰が悪いわけでもなく、仕方ないこと」と十勝毎日新聞社の取材に答えた。

8歳から競技を始めた山本選手を、両親は献身的にサポートした。道内だけでなく、熊本県や青森県などにフェリーやレンタカーを使って遠征した。車内で

の丸をペインティングした哲也さんは「誰が悪いわけでもなく、仕方ないこと」と十勝毎日新聞社の取材に答えた。

の丸をペインティングした哲也さんは「誰が悪いわけでもなく、仕方ないこと」と十勝毎日新聞社の取材に答えた。

(北雅貴)

